

母の料理

ショウ エンレイ
周 燕玲

工場で働いている私の母は忙しいですが、休みの日は私に料理を作ってくれます。あまり料理に手間をかけられない母は料理が下手です。でも、母の作る料理の味は特別です。どこにいても同じ味の料理は食べられません。

母の料理はどんな料理だと思いますか。……実は普通の玉子チャーハンです。素朴な醤油味のチャーハンです。想像すると、母がチャーハンをフライパンで炒めるいい匂いがしてくるようです。

日本の生活は忙しくて、あまり複雑な料理が作れません。でも、玉子チャーハンは簡単だし、母の味でもあります。だから、料理が下手な私も時々作ります。母が作った通りに作ります。できあがった玉子チャーハンを見ると母を思い出し、私にくれた愛情の深さに、せつなくなります。私が高校生の時、両親は離婚しました。私が勉強に集中できるように、母は私に言いませんでした。そして大学に入った時、私は事実を知りました。私は母の決めたことを尊重したいと思いました。私のために、母は毎日苦勞して仕事をしています。だから私と母は話す時間があまりありません。それでも、休みの日になると、玉子チャーハンを作ってくれるのが、とても楽しみでした。温かいチャーハンを食べると、すべての嫌なことが忘れられるようです。

今、日本で生活して、母と話す時間はもっと少なくなりました。先週、私は自分で作った玉子チャーハンの写真を母に送りました。母は「何でも買える時代だから、自分でやる必要はない」と言いました。「うちで作ったチャーハンが一番だよ」と返信しました。自分で作った玉子チャーハンを食べ、母を思い出して泣きました。私が一番食べたいのは、どんな豪華な外食よりも、母の作った玉子チャーハンです。母は別に料理上手ではありませんし、あの玉子チャーハンも適当に作っている感じです。どうして、そんな玉子チャーハンが、本当に、本当においしいのですか。……それは、簡単な食材と母の愛情が私のお腹も心もいっぱいしてくれるからです。今でも私は、嫌なことがあった時、母の玉子チャーハンを思い出します。きらきら光ったチャーハンは私の心の中で宝物のように輝き、私を強くさせます。

大学を卒業後、私は日本の大学院で社会学を勉強したいと思いました。母は私の意見を尊重してくれ、日本へ行かせてくれました。日本に来て、私は一人です。いつもそばにいてくれた母はもういません。半年日本で生活して、少しずついろいろなことができるようになってきました。自分の力で生活しながら、責任について考えることが多くなりました。母は母としての責任を持って、私を育ててくれました。仕事が忙しくて疲れていても、休みの日にはチャーハンを作ってくれました。あのチャーハンには愛情だけでなく、母親としての責任も入っていたのだと思います。その強い気持ちが私を強くさせました。責任は人を守り、そして強くすることができます。将来、チャーハンの味を忘れないで、私は社会における個人の責任について研究し、その責任の持つ大きな力を考えていきたいと思っています。そして、自立したら母が良い生活ができるように頑張りたいです。